

# 「オクラ博覧会」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

終業式が近づき、子どもたちがオクラの鉢を持ち帰る時期になった。そこで、夏休みを前に「オクラ博覧会」を開催した。同じ鉢に同じ培養土を入れ、同じ種子を3粒ずつまいたのに、同じ成長のオクラは一つもない。まだ花が一つも咲いていない鉢もあれば、もう食べごろの実がついている鉢もある。



「オクラ博覧会 EXPO2016」の様子

「オクラ博覧会」では、自分の鉢だけでなく、クラス内のどの鉢のオクラを観察しても良い。今回は「実の成長」ということにねらいを絞ってみた。



机の上に雑巾を敷いて、その上に鉢を置く。子どもたちは専用の観察用紙を持って、観察したい鉢の場所に行く。花が終わった直後から、すでに固くなり始めた果実まで、さまざまな成長過程のオクラの実がある。いくつかシャクトリムシがついて大騒ぎになった。たぶん「コガタツバメエダシャク」の幼虫だろう。

オクラの実のせい長 3年 組( )  
7月11日(月曜日) 天気 ○ 気温 28℃

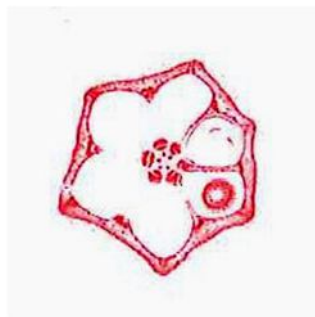
<p>①(花)</p> 	<p>② 小さな実</p> 
<p>(説明文) さねたら、キラキラでした。毛はへえていませんでした。</p>	<p>大きなは、くっきり五角形にばっていますが、まだあまり五角形にはなっていない。毛は、はえていてさねたらキラキラしていました。</p>
<p>③ 中くらいの実</p> 	<p>④ 大きな実</p> 
<p>さねたら、ワカワカしていて、毛がはえていました。小さな実とちがって、くっきり糸糸がはえています。</p>	<p>だんだんまがってきて、毛が多くなってきた。みじり色になってきました。</p>

ふりかえり  
さい後、大きな実になるとまがってきています。大きくなると、毛も多くなっていました。



ノートに観察させても良いのだが、今回は「教師根性」丸出しで、専用の観察用紙を配布した。①～④まで、実の成長過程を観察できるようになっている。①は花、②は花弁が落ちた直後、③は小さな実、④は大きな実・・・といったところである。それぞれの観察枠の下3分の1は説明文のスペースとした。

最初は、いろいろなオクラを見るのに夢中で、観察用紙を受け取りにも来なかった。しかし、だんだん「すべての成長過程を記録する」ということの面白さに気づき、多くの子どもは40分以内に観察用紙を完成させることができた。



用紙を提出しに来た子どもには、本物のオクラの実を切って作った「オクラスタンプ」を押してあげた。これは大好評だった。夏休み前の、楽しい活動だった。